

## 当院における腹腔鏡下鼠径ヘルニア 修復術 (TAPP) の導入と治療成績

とよ 豊 田 暢 彦 水 谷 和 典 谷 浦 隆 仁  
はっ 部 晋 司 三 浦 義 夫 塩 田 摂 成

キーワード：鼠径ヘルニア，腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術，TAPP

### 要 旨

【目的】腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の有効性・安全性について検討した。

【対象と方法】当院で TAPP を導入した2013年4月から2016年7月現在までに経験した全98例において、手術時間、出血量、術後在院日数、術後合併症、再発率について検討し、さらに術者の習熟度別の比較も行った。

【結果】全98症例の内訳は I 型67例，II型22例，III型5例，IV型2例，V型2例で、うち両側例は10例あった。手術時間は片側例 (93例) で1時間50分，両側例 (5例) で2時間55分，出血量は全例極少量であった。術後在院日数は3.5日 (1 - 8日) で，術後合併症として5例 (5.1%) に漿液腫を認めたが，再発は認めていない。術者の習熟度別の検討では，手術時間は差がみられたが，術後在院日数，合併症および再発率には差がなかった。

【結語】TAPP は鼠径ヘルニアの術式として妥当であり，手技に習熟した指導医のもと施行することで，確実性と安全性を保つことが可能である。

### はじめに

外科医の登竜門とされる鼠径ヘルニアであるが，その術式は Lichtenstein，Kugel 法に代表される前方アプローチと，TAPP (Transabdominal preperitoneal repair)，TEP (Totally extraperitoneal repair) の腹腔鏡下アプローチに二分

されている。しかし，術式の選択に関しては，施設の背景因子や術式に対するポリシーの違いから施設内および施設間での多様性を生じているのが現状である。今回，当科で2013年4月に導入した腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (以下，TAPP) の治療成績を紹介し，TAPP の有用性について検証する。

Nobuhiko TOYOTA et al.

益田赤十字病院外科

連絡先：〒698-8501 益田市乙吉町イ103-1

益田赤十字病院外科

### 対象と方法

当科で2013年4月から2016年7月現在までに経